

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 22年11月
(第44 ~ 47週)

発行年月日：平成22年(2010年) 12月14日
発行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 22年				平成 21年 ^{*1}				感染症 類型	疾 病 名	平成 22年				平成 21年 ^{*1}					
		1～10月		11月		1～12月						1～10月		11月		1～12月					
		滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0				
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	97	0	14	0	129						
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	3	0	1	0	3						
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0						
	ベスト	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0						
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0						
二類	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	ブルセラ症	0	2	0	0	0	2							
	急性灰白髄炎	0	2	0	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0							
	結核	213	21,044	14	2,306	256	26,932	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0							
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	発しんチフス	0	0	0	0	0	0							
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0							
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	マラリア	0	61	0	7	0	56							
三類	コレラ	0	10	0	1	1	16	野兔病	0	0	0	0	0	0							
	細菌性赤痢	2	208	0	8	0	180	ライム病	0	11	0	1	0	9							
	腸管出血性大腸菌感染症	61	3,811	5	174	27	3,886	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0							
	腸チフス	0	26	0	4	0	29	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0							
	パラチフス	1	19	0	1	0	27	類鼻疽	0	3	0	0	0	0							
四類	E型肝炎	0	52	0	1	1	56	レジオネラ症	9	609	0	67	8	712							
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	レプトスピラ症	0	19	0	2	0	16							
	A型肝炎	3	318	0	12	0	115	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0							
	エキノコックス症	0	9	0	2	0	26	五類	アメーバ赤痢	4	697	1	56	10	783						
	黄熱	0	0	0	0	0	0	ウイルス性肝炎	3	170	0	22	3	220							
	オウム病	1	9	0	0	0	21	急性脳炎	0	193	1	18	8	526							
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	クリプトスポリジウム症	0	16	0	0	0	17							
	回帰熱	0	0	0	1	0	0	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	139	0	5	2	141							
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	2	99	0	10	2	105							
	Q熱	0	2	0	0	0	2	後天性免疫不全症候群	1	1,241	0	108	9	1,449							
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	ジアルジア症	1	69	0	6	0	73							
	コクシジオイデス症	0	0	0	1	0	2	髄膜炎菌性髄膜炎	0	7	0	0	0	10							
	サル痘	0	0	0	0	0	0	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	2							
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	梅毒	7	511	1	39	3	692							
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	破傷風	0	86	0	9	3	113							
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0							
	炭疽	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	96	0	8	0	116							
	つつが虫病	0	130	0	74	0	465	風しん	5	76	0	2	2	148							
	デング熱	1	215	0	14	0	93	麻しん	1	410	0	12	7	739							
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	新型インフルエンザ(H1N1) ^(*)	-	-	-	-	138	12,639							
鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	新型インフルエンザ等感染	-	-	-	-	-	-								

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*) : 集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日。 - : 未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*) : 集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日、- : 未集計

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

11月の概要

<インフルエンザ>

第44～47週(11/1～11/28)の定点当たり患者数は、0～0.06で推移していました。先月よりやや増加しているものの、昨年を除く過去の同時期とほぼ同様の発生状況を示していました。

<小児科定点疾患>

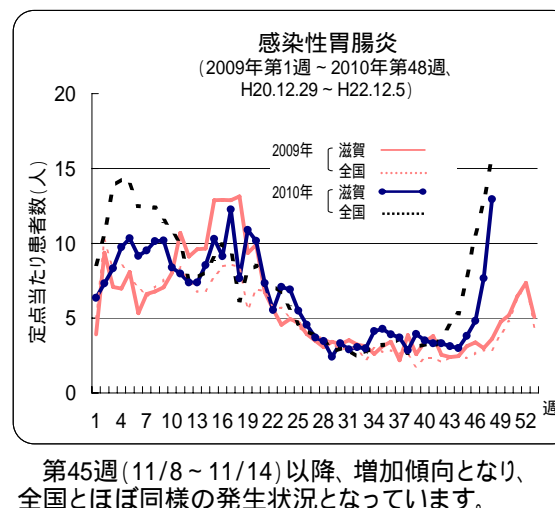
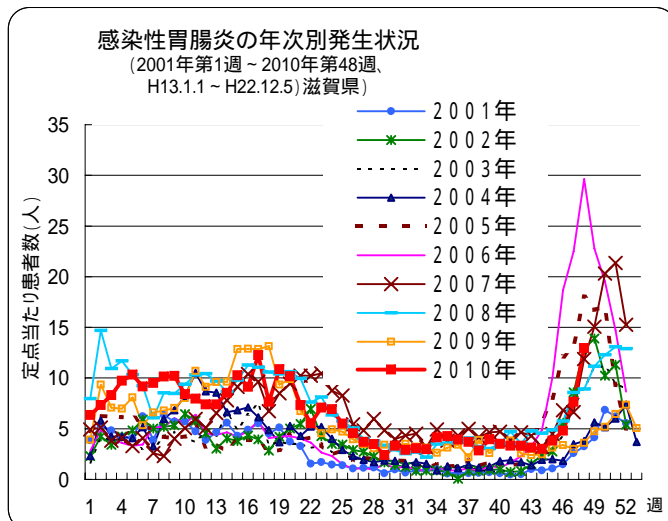
大部分の疾患で、先月より増加していました。特に、RSウイルス感染症、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎および水痘で急増していました。RSウイルス感染症では、先月と同様に高島保健所管内で多くなっていました。A群溶連菌咽頭炎では、草津および東近江保健所管内からの報告が多くなっていました。感染性胃腸炎の発生状況は、下記グラフのとおりです。保健所管内別では、甲賀および長浜で多くなっていました。水痘では、第45週(11/8～11/14)に高島保健所管内で、警報発生基準値(定点当たり患者数 7.0)を超えていました。

また、先月より減少した疾患は、突発性発しんおよびヘルパンギーナでした。百日咳は先月と横ばいでしたが、先月と同様、大津市保健所管内で多くなっていました(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月よりやや減少し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、無菌性髄膜炎は先月より微減となり、マイコプラズマ肺炎は倍増していました。特に、マイコプラズマ肺炎は、東近江保健所管内からの報告が多くなっていました。細菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

感染性胃腸炎の発生状況



第45週(11/8～11/14)以降、増加傾向となり、全国とほぼ同様の発生状況となっています。

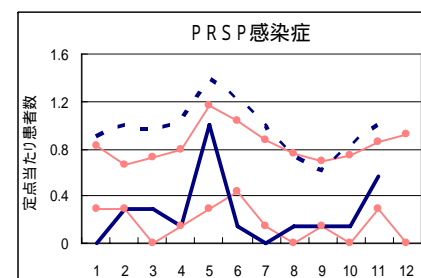
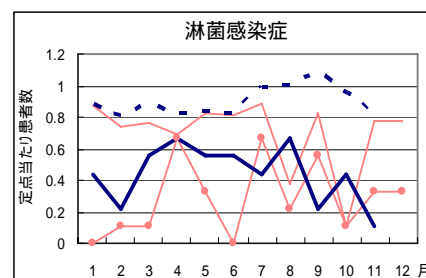
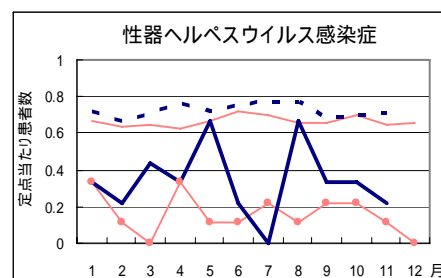
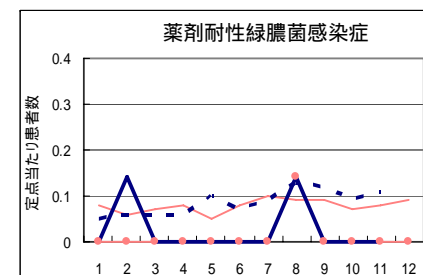
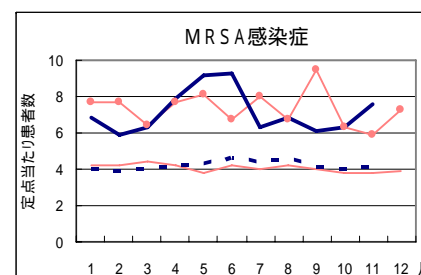
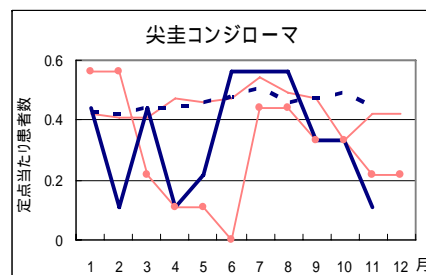
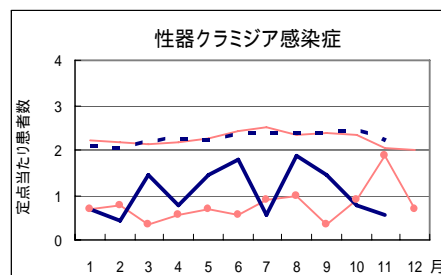
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶連菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 22 年 11 月)

疾患名	区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	合 計
性器クラミジア感染症	罹患数	6	4	13	7	13	16	5	17	13	7	5		106
	定点当たり	0.67	0.44	1.44	0.78	1.44	1.78	0.56	1.89	1.44	0.78	0.56		11.78
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	3	2	4	3	6	2	0	6	3	3	2		34
	定点当たり	0.33	0.22	0.44	0.33	0.67	0.22	0	0.67	0.33	0.33	0.22		3.76
尖圭コンジローマ	罹患数	4	1	4	1	2	5	5	5	3	3	1		34
	定点当たり	0.44	0.11	0.44	0.11	0.22	0.56	0.56	0.56	0.33	0.33	0.11		3.77
淋菌感染症	罹患数	4	2	5	6	5	5	4	6	2	4	1		44
	定点当たり	0.44	0.22	0.56	0.67	0.56	0.56	0.44	0.67	0.22	0.44	0.11		4.89
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患数	48	41	44	55	64	65	44	48	43	44	53		549
	定点当たり	6.86	5.88	6.29	7.86	9.14	9.29	6.29	6.86	6.14	6.29	7.57		78.47
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患数	0	2	2	1	7	1	0	1	1	1	4		20
	定点当たり	0	0.29	0.29	0.14	1.00	0.14	0	0.14	0.14	0.14	0.57		2.85
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0		2
	定点当たり	0	0.14	0	0	0	0	0	0.14	0	0	0		0.28

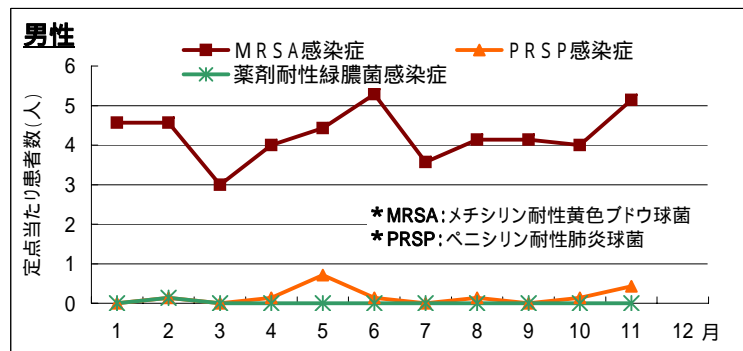


H21 { 滋賀 (red line with dots)
 全国 (pink line)
 H22 { 滋賀 (blue line)
 全国 (dotted blue line)

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
 PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

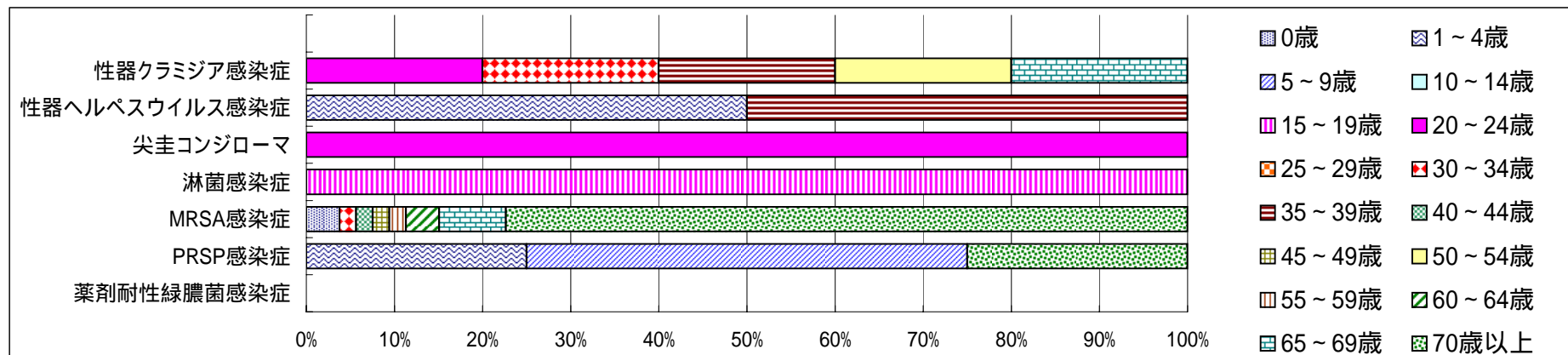
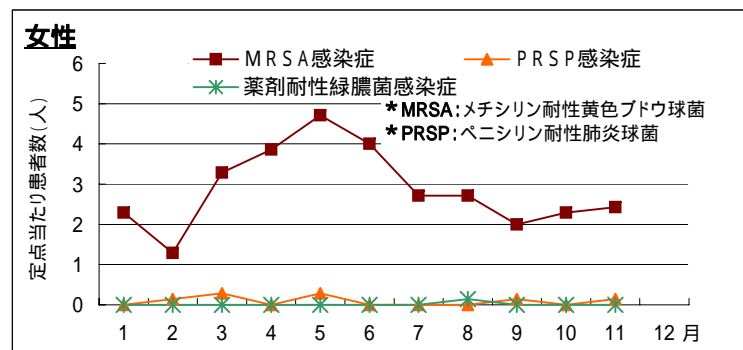
性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、増加した疾患はPRSP感染症およびMRSA感染症で、減少した疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマおよび淋菌感染症です。また、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありません。

基幹定点における疾患別発生状況
(H22.11)

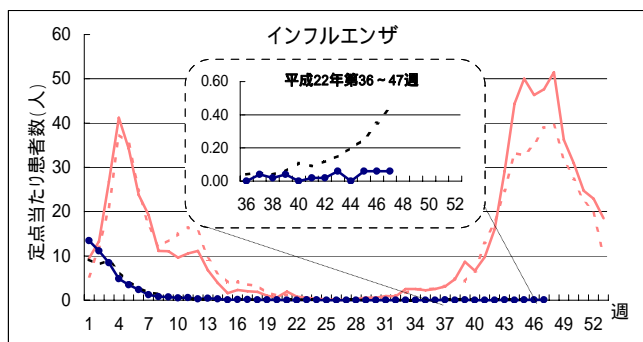


性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症および淋菌感染症では、男女ともに減少しています。MRSA感染症およびPRSP感染症では、男女ともに増加しており、男性における増加がやや多くなっています。

また、各疾患の年齢別発生状況は下記グラフのとおりです。淋菌感染症では、15～19歳から報告されています。

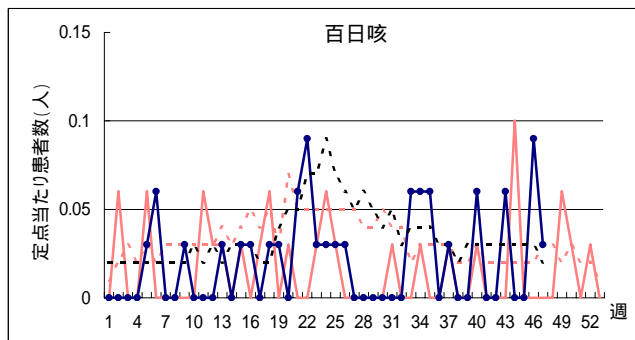
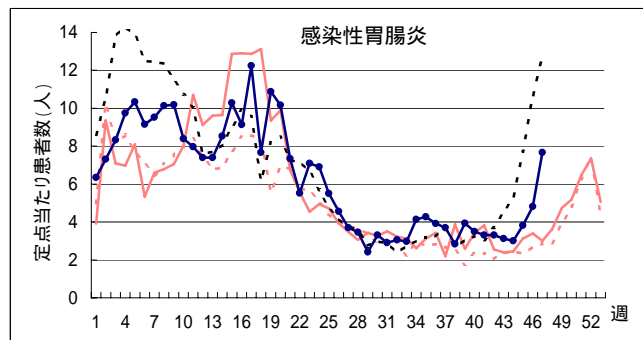
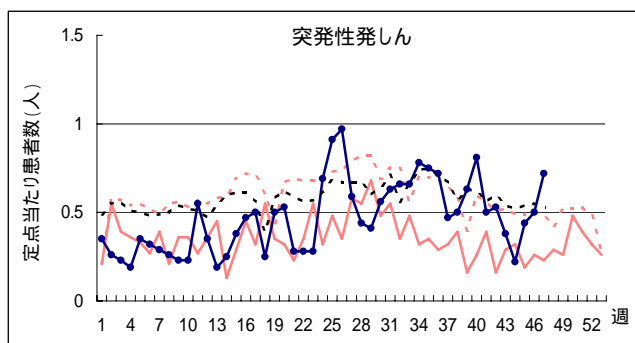
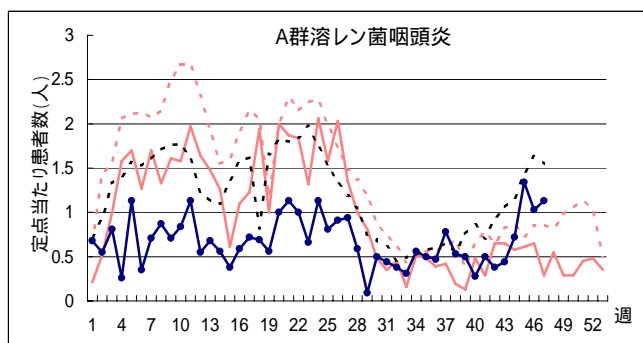
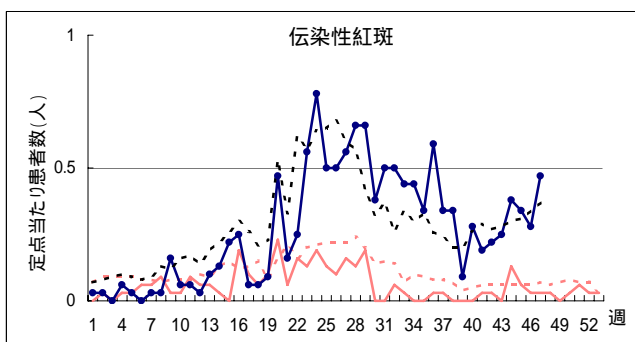
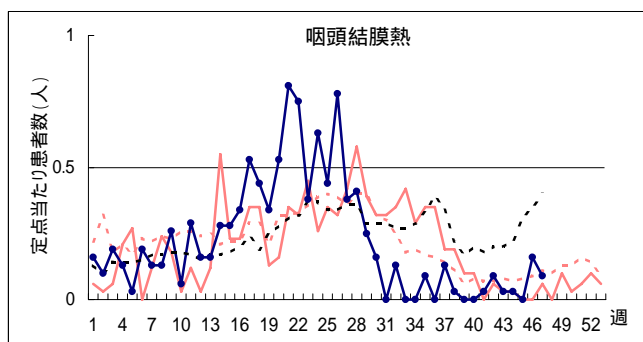
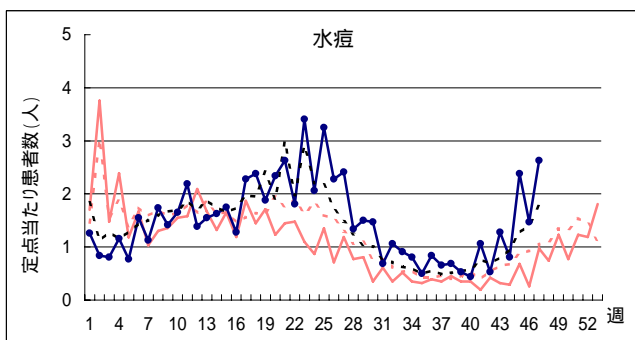
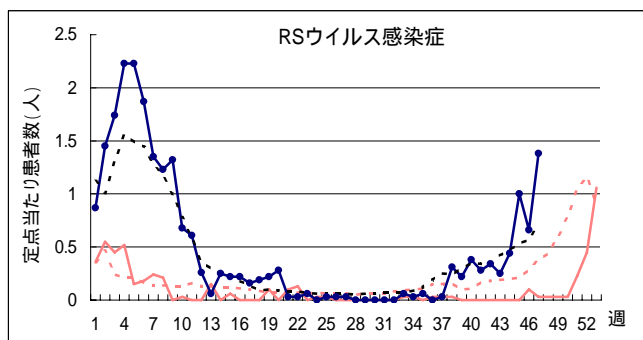


疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ~ 47 週、H22.1.4 ~ H22.11.28)

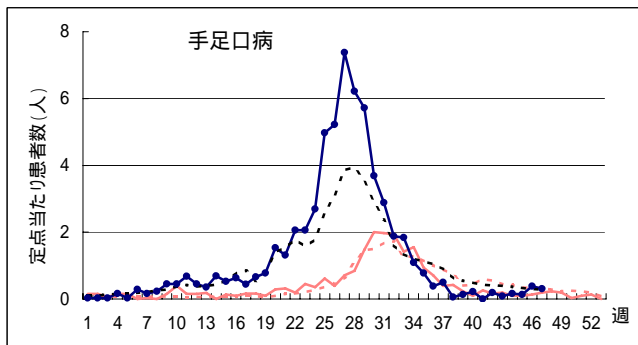


H21 { 滋賀 (solid red line)
全国 (dotted red line)

H22 { 滋賀 (solid blue line with dots)
全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ~ 47 週、H22.1.4 ~ H22.11.28)



H21 { 滋賀 (solid red line)
全国 (dotted red line)

H22 { 滋賀 (solid blue line with dots)
全国 (dotted black line)

